

第 22 回「日本体験 コンテスト in 大韓民国」 実施報告

第 22 回 日本体験 コンテスト in 大韓民国
実行副委員長 方 旼京

1. 総評

「第 22 回日本体験コンテスト in 大韓民国」は 7 月 13 日(土) 9:30 から、ソウルロッテホテル 36 階バークレーホールにて開催しました。

今年の日本体験コンテストは前年度に比べて入賞者の数を 15 名に増やし、日本体験(研究、就業)を希望する韓国の学生たちにより多くの機会を提供しようとしてしました。

前年に続き「第 22 回日本体験コンテスト in 大韓民国」では、日本の大学院で学術/研究体験をする「学術・研究部門」と日本の企業で勤務体験をする「職業体験部門」の 2 部門で体験を希望する学生たちを募集し、企画書を提出してもらいました。

コンテストは、事前に 3 名の審査委員が 1 次応募者 25 名の書類を審査して 15 名の 2 次面接者を選抜し、7 月 13 日に 2 次面接を実施しました。

2 次面接は、3 グループに分け、プレゼンテーション及び審査委員 3 名の質疑応答によって審査が実施されました。

授与式では、最終入賞者 15 名(学術・研究部門 5 名、職業体験部門 10 名)を選抜し、「夢・日本体験賞」として賞状と各 25 万円の賞金を授与しました。

入賞者の企画書は、学術・研究部門:「日本思想と韓国思想の関係に関する研究」、「コーパスを活用した分析統計方法に関する研究」、「目的性生体分子を解析する方法」等でした。

職業体験部門:「理論的に学んだホテルサービスの実務挑戦」、「日本の優秀なモデリング技術体験」、「大学で学んだ RPA 技術体験の実現」など多様な内容でした。

最終入賞者は提出した企画書通りに体験し、体験日誌と報告書を提出し、提出された最終報告書は、当財団ホームページ及び定期刊行物「アジア文流」に掲載される予定です。

授与式後の懇談会には、入賞者 15 名、審査委員 3 名、本行事の後援企業である ANA ソウル支店長大和田哲也様とスタッフが参加しました。

参加者たちは軽食を共にし、“日本の正式名称は「にっぽん」なのか、「にほん」なのか”、“日本の国花はキクなのか桜なのか”、“韓国と日本の多様な味”など、多様な主題について話し合い、両国間の理解を深め、学生たちは審査委員より日本体験に関する貴重なアドバイスを聞くなど、充実した時間になりました。

共立国際交流奨学財団は、これからも日本留学・就業を希望する韓国の学生たちにより多くの機会を提供し、その機会が日本就業及び留学に繋がり、韓国学生たちが日本で大いに活躍することを応援し、期待しています。

2. 実施内容

- 日 時：2019 年 7 月 13 日(土) 09:30~13:30 (面接・授与式・今後の説明及び懇談会)
- 場 所：韓国 ソウル ロッテホテル 36 階 バークレーホール
- 審査委員：黒田 勝弘 産経新聞 客員論説委員
李 康民 韓国 漢陽大学校 日本学科 教授
菊川 長徳 日本 国士舘大学 21 世紀アジア学部 教授
- 主 催：一般財団法人 共立国際交流奨学財団
- 後 援：日本国文部科学省、在大韓民国日本国大使館、全日本空輸株式会社 ソウル支店
- 協 賛：株式会社 共立メンテナンス

① 【面 接】 9 : 30～11 : 40



② 【授与式】 11 : 40～12 : 20



③ 【今後の説明及び懇談会】 12 : 20～13 : 30



3. 入賞者 15 名と 体験先

【職業体験部門 10 名】

名前	所属大学名	職業体験先
朴 相峻 パク サンジュン	翰林大学校	一般財団法人 北海道 国際交流センター(HIF)
高 恩備 コウ オンビ	徳成女子大学校	一般財団法人 北海道 国際交流センター(HIF)
孫 チェリン ソン チェリン	漢陽女子大学校	(株)フューチャー・デザイン・ラボ
朴 是賢 パク シヘン	仁荷大学校	ホテル函館山
崔 栽錫 チェ ジェソク	仁荷大学校	株式会社 オリジナルプラン
徐 多瑩 ソ ダヨン	徳成女子大学校	COUXU 株式会社
朴 廣珉 パク グァンミン	カトリック大学校	株式会社 COCOA
金 汝哲 キム ムンチョル	ソウル市立大学校	株式会社 共立メンテナンス
朴 智延 パク ジヨン	カトリック大学校	UNIBIRD 株式会社
安 智願 アン ジウォン	漢陽大学校	株式会社 ナラハラオートテクニカル

【学術・研究部門 5 名】

名前	所属大学	研究体験先
シン イス 申 伊秀	東国大学校大学院	東海大学 国際教育センター
キム チャンロク 金 創録	漢陽大学校大学院	東北大学大学院 日本思想史研究室
キム ヒョンウイ 金 玆意	中央大学校大学院	大阪大学 社会言語学研究室
ファン ユリム 黄 裕林	延世大学校	北海道大学 生体分子機能学研究室
ヒョン ヘリン 玄 慧璘	高麗大学校大学院	立命館大学 言語教育情報研究科



後列左から入賞者

キムヒョンウイ / バクグアンミン / バクシヒョン / シンイス / コウウンビ / キムチャンロク / キムムン Chol
 金 玆意 / 朴 廣珉 / 朴 是賢 / 申伊秀 / 高恩備 / 金 創録 / 金 汶 哲
 ファン ユリム / ヒョンヘリン / ソンチェリン / チェジェソク / バクサンジュン / ソンダヨン / アンジウオン / パクジン
 黄 裕林 / 玄 慧璘 / 孫チェリン / 崔載錫 / 朴相 峻 / 徐多瑩 / 安智 願 / 朴智延
 菊川 長徳 実行委員長 / 黒田 勝弘 審査委員長 / 李 康民 審査委員 / 大和田 哲也 支店長
 (全日本空輸 ソウル支店)

4.審査委員講評

◆審査委員長 黒田 勝弘（産経新聞 客員論説委員）



韓国の皆さんを対象にしたこの日本体験コンテストは当初、日本語スピーチコンテストとして長年行われていた。その後「日本旅行体験コンテスト」となり、最近では職業および研究体験コンテストとして行われている。当初のことを念頭にいえば、日本体験コンテストでの基本は、今でもやはり日本語ができるということである。

韓国の皆さんにとって日本語はやさしいようで難しいところがあると思う。たとえば日本語の発音は韓国語のように複雑ではないので、旅行やホームステイなどでの日常的な会話にはすぐ慣れて、うまくなる。しかし漢字語をたくさん使う職場体験や研究体験では、漢字を知らなければならない。

日本理解のためには漢字の知識が不可欠である。その意味で今回のコンテストに際し、自分の名前や住所をハングルだけで書いた応募者がいたが、これは日本語への理解が足りないということであり、いっそうの努力が求められる。

日本語の難しさは「山」という漢字を「サン」とも読むし「ヤマ」とも読むという、いわゆる音（おん）と訓（くん）があることだ。これは「サン」という漢字が中国（あるいは韓国）から伝わった時、固有の日本語である「やま」という言葉を残すために「山」を「ヤマ」とも読むように訓読みを編み出したからだ。

韓国語では「やま」には固有の言葉として「메」という言葉があったが、「山」という漢字が中国から入った後は「サン」という言葉だけになってしまった。だから韓国語では「あのサンは美しい」とか「あすサンに登りましょう」といい「메」という言葉は消えてしまった。

日本体験は日本語体験でもある。日本体験を通じ、日本における漢字の面白さとその重要性に関心を持っていただけだと思う。

◆審査委員 李 康民（漢陽大学校 日本学科 教授）



2019年7月13日（土）、第22回「日本体験コンテスト in 大韓民国」の最終面接がソウルのロッテホテルで行われました。書類審査を通過した15人の応募者を三つのグループに分け、日本語の面接を行い、最終的に15人全員が入賞者として採用されました。昨年の10人の入賞者に比べ、5人増えたのですが、厳しい状況の中でも、一人でも多くの応募者を採用すべくご尽力下さった共立国際交流奨学財団の皆さんに改めて御礼申し上げます。

さて、今回の「日本体験」も、前回と同様に、「職業体験部門」に応募した人が多く、韓国の大学生の日本企業への熱い視線を感じることができました。中には、料理や製パン技能資格をもち、日本のホテルで働きたいという希望を持っている人、正式に日本語を習ったことはないが、ネットのバラエティーションを通し日本語を身につけた人、5年前の第17回のコンテストに応募したが入賞できず、今回再び挑戦した人など、応募者全員多様な背景をもっており、興味深くお話を聞かせていただきました。

「研究学術部門」では5人の入賞者が確定しましたが、日本の思想史や生命科学、言語情報などの多様な分野を研究テーマにし、体験先としても、東北大学、北海道大学、立命館大学、東海大学、大阪大学など、全国的な分布を見せており、大変均衡のとれた形に収まったことをご報告致します。

今回のコンテスト期間には、あいにく日韓の経済摩擦が表面化し、少し気が重くなりましたが、こういう時期こそ、入賞者の皆さんが日本に渡り、「日韓大丈夫だ」という未来世代のメッセージをお伝えくれることを願っております。今回の入賞者の皆さん、ご苦労様でした。そしておめでとうございます。